

すこやか通信

発行所: 社団法人 日本小児科学会 〒112-0004 東京都文京区後楽1-1-5第1馬上ビル4階 TEL.03(3818)0091
 発行人: 柳澤正義/制作: 株式会社 協和企画

お母さん

赤ちゃんにとって、お母さんの存在はかけがえのないものです。お母さんにとっても、ついこの間まで自分のお腹の中で育っていたのですから、かわいくて、かわいくて……。泣けば夜中でもおっぱいを飲ませるし、おむつを取りかえたり抱っこしたり、赤ちゃんのほほえみに心をときめかせたり。

だから、赤ちゃんはお母さんが好きだし、お母さんは赤ちゃんのすべてを無条件で受け入れていきます。

お父さん・家族

そんなときお父さんは、ちょっとうらやましくなるけれど、赤ちゃんがすくすく育っていく様子を身近にして、家族としての責任を感じるようになるでしょう。そして、赤ちゃんと一緒に楽しい家庭を作っていきます。子どもの発達の基本が形成される3歳ころまでは、子どもの側に立ってみると、何でも受け入れてくれる身近な人たちの存在が必要です。

友達

2〜3歳になると、子どもの行動は広がり、遊びの中でいろいろな経験を積んでいきます。

みんなでき育て

日本保育園保健協議会 会長 巷野 悟郎



これからの子育て

そういうとき、いつも自分を受け入れてくれる家族ばかりではなく、ときには同年齢の子どもたちとの他流試合が必要です。そこでは自分の要求が通らないことや、我慢しなければならぬこと、積極的に行動しなければならぬことなどを学びます。

みんなで

そして、次第に家族から友達へ生活の輪が広がっていきます。

しかし、なかにはそのような機会が持たないで、反対にひきこもってしまう、次第に育児不安へと発展しかねないお母さんもいます。

そこで最近では、子育て支援の一環として「保育園」を開放したり、地域の「子育て支援センター」や「育児グループ」などが家庭の子どもを受け入れたりして、子ども同士の遊びの場を提供しています。

そのようなところは、育つていく子どもにとっての、いわば社交の場として、今やなくてはならない存在となつてきています。遠慮なく出かけましょう。

な、そうやって大人になってきたのです。

私たちは、全国2万2千の保育園で生活するお子さんのために、そして家庭にいたるたくさんのお子さんのために、よりよい子育てのお手伝いを目指してがんばっています。

日本保育園保健協議会のホームページ
<http://www.edsu.ad.jp/NHKK/>

こののころ
 こどもの成長保健クリニック院長
 1944年東京大学医学部卒業、都立駒込病院副院長、都立府中病院院長、東京家政大学・聖徳大学児童学科教授を経て、現職。社団法人全国ベビーンタワー協会会長。

